

特別の教科 道徳の全面実施に向けて

- ◇「特別の教科 道徳」の趣旨の理解に
- ◇教育課程編成の手引きとして
- ◇研修や研究会の資料として

1 道徳性について

2 内容項目について

3 道徳科の目標について

4 道徳教育の全体計画について

5 全体計画の別葉について

6 道徳科の年間指導計画について

7 道徳科の評価について ① ②



これらの事柄について、解説
しています。

特に道徳科の評価については
4ページ構成にしています。

校内研修や地区部会等で、活用
できると思います。

1 道徳性について

道徳性については、様々な考え方があり、多くの研究者がそれぞれの研究に基づいて説明をしているが、学校教育においては「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に則って指導していく。

道徳性とは

(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編から)

- よりよく生きるための営みを支える基盤となるもの
- 人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの
- 人間らしいよさであり、道徳的価値が一人一人の内面において統合されたもの

道徳性とは、
内面的資質のこと。

例えば、下のような標語を例にして考えてみます。

※宮澤章二「行為の意味」から

「思い」は見えないが、
「こころ」は見えないが、

「思いやり」は見える。
「こころづかい」は見える。

よりよい行為へのエネルギー
(内面的資質)

- ・ 道徳的判断力
- ・ 道徳的心情
- ・ 道徳的実践意欲と態度

よりよい行為
(道徳的行為, 道徳的習慣)

道徳的実践

- 道徳的判断力
 - ・ 善悪を判断する能力。
 - ・ どのように対処することが望まれるかを判断する力。
- 道徳的心情
 - ・ 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。
 - ・ よりよい生き方や善を志向する感情。
 - ・ 道徳的行為への動機として強く作用するもの。
- 道徳的実践意欲と態度
 - ・ 道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
 - ⇒道徳的実践意欲・・・道徳的価値を実現しようとする意志の働き
 - ⇒道徳的態度・・・具体的な道徳的行為への身構え

※これらは、特に序列や段階があるということではない。

(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編から)

2 内容項目について

1. 内容項目とは

- ◇内容項目とは、道徳的価値を含む内容を短い文章で平易に表現したもの。
- ◇道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての生き方の礎となるもの。

<小学校>

- 内容項目の数の変更
 - ・低16 ⇒ 19項目 ・中18 ⇒ 20項目 ・高22 ⇒ 22項目
- 低学年の新規内容
 - ・「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際貢献」
- 中学年の新規内容
 - ・「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」
- 高学年の新規内容
 - ・「よりよく生きる喜び」
 - ・整理、統合され、できた内容項目 ⇒ 「よりよい学校生活、集団生活の充実」

<中学校>

- 内容項目の数の変更 24項目 ⇒ 22項目
- 整理、統合され、できた内容項目
 - ・「思いやり、感謝」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」
- 分割され、できた内容項目
 - ・「自然愛護」「感動、畏敬の念」

2. 内容項目と道徳的価値

個々の内容項目には、単一の道徳的価値が含まれているものや複数の道徳的価値が混在しているものもある。

<内容項目に含まれる道徳的価値(例)・・・高学年の内容項目から4つを抜粋>

[希望と勇気、努力と強い意思]	内容項目	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
	道徳的価値	勤勉、努力、不撓不屈、希望、勇気
[友情、信頼]	内容項目	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
	道徳的価値	友情、協力、信頼、異性尊重
[生命の尊さ]	内容項目	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
	道徳的価値	生命尊重
[規則の尊重]	内容項目	法やさまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
	道徳的価値	規則尊重、公德心、権利、義務

※授業を構想する際には、内容項目から指導すべき道徳的価値を明確にする必要がある。

3 道徳科の目標について

道徳の時間の目標

道徳の時間においては、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と密接な関連を図りながら計画的、発展的な指導によってこれを補充・深化・統合し、**道徳的価値の自覚及び自己の生き方**についての考えを深め、**(人間としての生き方について) 道徳的実践力を育成する。**

※ () は中学校

特別の教科 道徳の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。
※ () は中学校

3. 2. 1.
多面的・多角的に考える
自己を見つめる
道徳的価値の理解

1. 道徳的価値の理解

■ よりよく生きる上で道徳的価値は大切であること。

■ 道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいことや人間の弱さ等も理解すること。

■ 道徳的価値の実現には多様な感じ方・考え方があること。

友達と仲良くすると本当楽しいんだなあ。

目標に向かってやり遂げたときはいい気持ちだなあ。

みんなで使う場所で、みんなに迷惑をかけたことがあるなあ。

困っている人に親切にするのは大事だけれど、声をかけることは難しいなあ。

ありがとうにも、いろいろな思いがあるんだなあ。

親切な行為にも、いろいろな考え方があるなあ。

2. 自己を見つめる

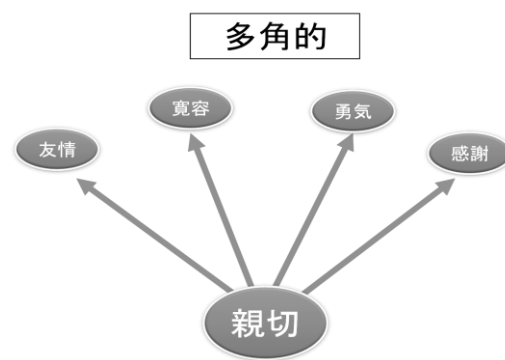
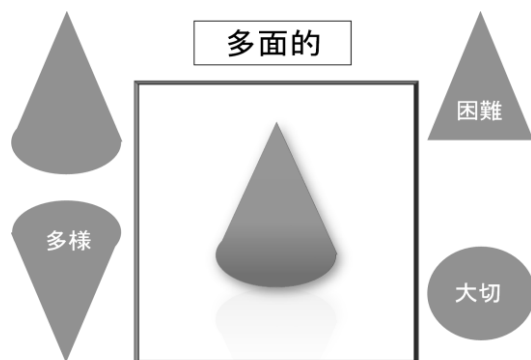
■ これまでの自分の経験やその時の考え方、感じ方と重ねながら、更に考えを深める。



私だったら・・・

3. 多面的・多角的に考える

■ 物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解し、主体的に学習に取り組むことが大切。



◇授業で、親切のよさや温かさに加えて、親切にすることの難しさについても考えさせよう！

◇授業では、親切にする側と親切にされる側の両面から考えさせよう！

◇授業では、親切に関連させて「勇気」や「感謝」についても同時に考えさせよう！

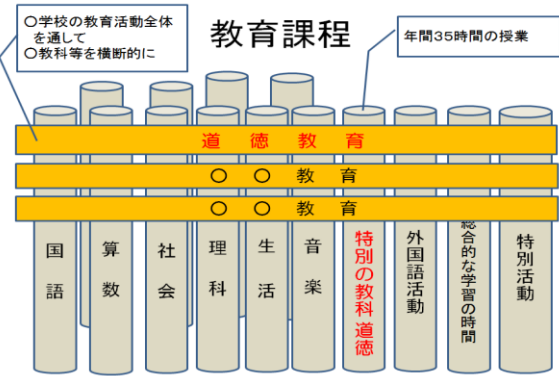
◇友達関係に関連させて「個性の伸長」や「寛容」についても考えを広げていこう！

4 道徳教育の全体計画について

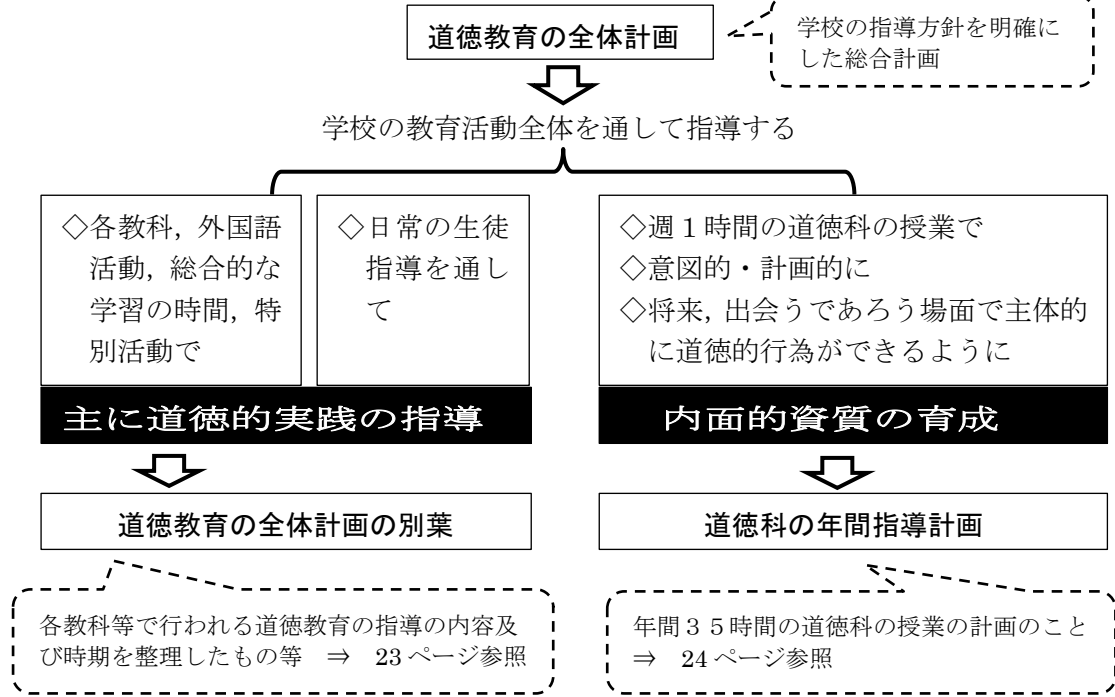
1. 道徳教育の2つの指導

道徳教育には、各教科や特別活動等で行われる道徳的実践の指導と、道徳科で行われる内面的資質の育成を目指した指導がある。

この2つの指導を意識することが大切であり、そのために各学校では、児童生徒の実態を踏まえた全体計画及び諸計画を作成しなければならない。



2. 道徳教育の全体計画と諸計画との関連



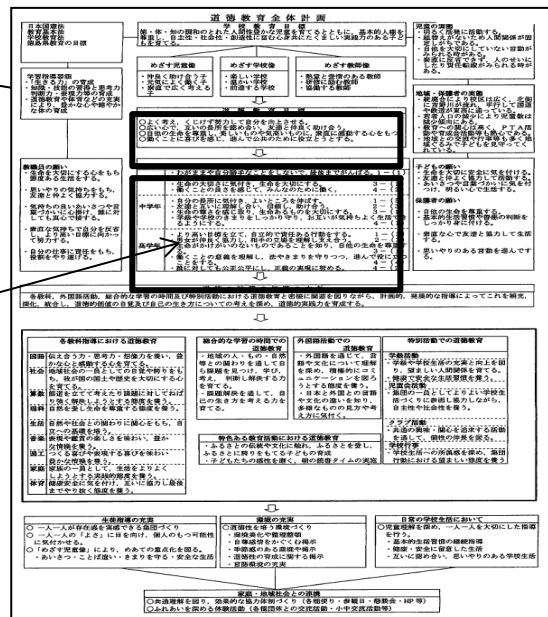
3. 道徳教育の全体計画

①道徳教育の重点目標の設定

- 校長は児童生徒の道徳性に関わる実態等を踏まえ、学校の道徳教育の方針を明示する。
- 学校の道徳教育の重点目標は全教職員で共通理解する。

②各学年の重点目標

- 校長が明示した道徳教育の重点目標に基づき、学年段階の重点目標を設定する。
- 各学年の重点目標は、道徳科の年間指導計画に反映させる。



道徳教育の全体計画のイメージ (例)

5 全体計画の別業について

1. 別業とは

今回の改訂で、道徳教育の全体計画に道徳授業以外の道徳教育の内容及び時期を示す必要があることが明示された。例えば以下のような内容である。

- ◇各教科等で行われる道徳教育の指導の内容及び時期を整理したもの。
- ◇道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの。
- ◇道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの。

別業とは、道徳授業以外の道徳教育の内容及び時期を、全体計画の中に書き表すことが難しいため、右のように、全体計画の一部として、一覧表にして示したものである。

全体計画の別業のイメージ(例) ⇒

表の横の項目は、教科等の名称

学年	科目	学習	生活	習字	図画工作	音楽	体育	特別活動
1-1		日常生活の中での道徳を体験する(10月)	自分の身の成長を振り返る(10月)	自分の言動に注意して暮らす(10月)				朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
1-2		孝法入札券に挑戦する(10月)	自分でできること探し、かたづけ(10月)		好きな本を読んで語り合うまで作り出す(10月)	目標をもつ目標を達成させる(10月)	日常生活での目標を決めて実行(10月)	
1-3								
1-4								
2-1		場面に合わせてあいさつをする(10月)	職場の人々に適切な言葉遣いをする(10月)					あいさつや言葉遣いを意識する(10月)
2-2		グループで話し合い、発表の準備(10月)	自分の思いを伝えて行動する(10月)	話し合うことを相手に伝える(10月)	朝の人の声のよいこと、うそをつき(10月)	自分の考えを伝えて話し合う(10月)	相手のことを考えておしゃべりする(10月)	朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
2-3		作文を添って感想を記入(10月)	遊びをよめる、友達と遊ぶ(10月)	友達と一緒に声を合わせて歌う(10月)	友人と話し合いながら目標を立てる(10月)	友達と協力して取り組む(10月)		
2-4			学習の安全を守る人々に感謝する(10月)					
3-1		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	動物の生かす責任を学ぶ(10月)					食と生活のつながりを感じる(10月)
3-2		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	身近な自然から四季の変化を感じる(10月)					自然を大切に育てる(10月)
3-3								
3-4								
4-1		10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	音楽の授業を守り、学ぶ(10月)				運動の準備や安全を守る(10月)
4-2								遠征の準備や安全を守る(10月)
4-3								
4-4								

表の縦の項目は、「内容項目」に関するキーワード

2. 別業の作成手順

- ① 各学校の具体的な道徳教育の**重点目標**を設定する。
- ② 道徳教育の重点目標の**ポイント**を明確にする。
- ③ 道徳教育の重点目標のポイントに関わって、**重点内容項目**を明らかにする。
- ④ 重点内容項目に関わって、**道徳授業以外の指導の内容及び時期**を明確にする。
- ⑤ **重点内容項目以外**の内容項目も、④の作業を行う。

(例)

① 学校長が設定した重点目標

例 『人間尊重の精神を生かし、相手の気持ちを考えて行動したり、社会規範を意識して行動したりする子どもの育成』

② ポイントを明確にする

例 校長先生の方針のポイントは、2つだ。
・相手の気持ちを考える
・社会規範を意識

③ 重点内容項目

例 道徳教育の内容で言えば、この2つだ。
・「親切、思いやり」
・「規則の尊重」

④ 重点内容項目に関わって

学年	科目	学習	生活	習字	図画工作	音楽	体育	特別活動
1-1		日常生活の中での道徳を体験する(10月)	自分の身の成長を振り返る(10月)	自分の言動に注意して暮らす(10月)				朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
1-2		孝法入札券に挑戦する(10月)	自分でできること探し、かたづけ(10月)		好きな本を読んで語り合うまで作り出す(10月)	目標をもつ目標を達成させる(10月)	日常生活での目標を決めて実行(10月)	
1-3								
1-4								
2-1		場面に合わせてあいさつをする(10月)	職場の人々に適切な言葉遣いをする(10月)					あいさつや言葉遣いを意識する(10月)
2-2		グループで話し合い、発表の準備(10月)	自分の思いを伝えて行動する(10月)	話し合うことを相手に伝える(10月)	朝の人の声のよいこと、うそをつき(10月)	自分の考えを伝えて話し合う(10月)	相手のことを考えておしゃべりする(10月)	朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
2-3		作文を添って感想を記入(10月)	遊びをよめる、友達と遊ぶ(10月)	友達と一緒に声を合わせて歌う(10月)	友人と話し合いながら目標を立てる(10月)	友達と協力して取り組む(10月)		
2-4			学習の安全を守る人々に感謝する(10月)					
3-1		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	動物の生かす責任を学ぶ(10月)					食と生活のつながりを感じる(10月)
3-2		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	身近な自然から四季の変化を感じる(10月)					自然を大切に育てる(10月)
3-3								
3-4								
4-1		10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	音楽の授業を守り、学ぶ(10月)				運動の準備や安全を守る(10月)
4-2								遠征の準備や安全を守る(10月)
4-3								
4-4								

思いやりにかかわる指導

規範意識にかかわる指導

⑤ 重点内容項目以外の内容項目も

学年	科目	学習	生活	習字	図画工作	音楽	体育	特別活動
1-1		日常生活の中での道徳を体験する(10月)	自分の身の成長を振り返る(10月)	自分の言動に注意して暮らす(10月)				朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
1-2		孝法入札券に挑戦する(10月)	自分でできること探し、かたづけ(10月)		好きな本を読んで語り合うまで作り出す(10月)	目標をもつ目標を達成させる(10月)	日常生活での目標を決めて実行(10月)	
1-3								
1-4								
2-1		場面に合わせてあいさつをする(10月)	職場の人々に適切な言葉遣いをする(10月)					あいさつや言葉遣いを意識する(10月)
2-2		グループで話し合い、発表の準備(10月)	自分の思いを伝えて行動する(10月)	話し合うことを相手に伝える(10月)	朝の人の声のよいこと、うそをつき(10月)	自分の考えを伝えて話し合う(10月)	相手のことを考えておしゃべりする(10月)	朝の挨拶や挨拶を身に付けていく(10月)
2-3		作文を添って感想を記入(10月)	遊びをよめる、友達と遊ぶ(10月)	友達と一緒に声を合わせて歌う(10月)	友人と話し合いながら目標を立てる(10月)	友達と協力して取り組む(10月)		
2-4			学習の安全を守る人々に感謝する(10月)					
3-1		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	動物の生かす責任を学ぶ(10月)					食と生活のつながりを感じる(10月)
3-2		学習の安全を守る人々に感謝する(10月)	身近な自然から四季の変化を感じる(10月)					自然を大切に育てる(10月)
3-3								
3-4								
4-1		10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	10月10日(敬老の日)にちなんで敬老の日	音楽の授業を守り、学ぶ(10月)				運動の準備や安全を守る(10月)
4-2								遠征の準備や安全を守る(10月)
4-3								
4-4								

思いやりにかかわる指導

規範意識にかかわる指導

2つの重点内容項目に関わって、道徳科以外の教育活動の中で、どのような指導ができるのか検討する。

その他の内容項目においても、どのような指導ができるのか検討する。

※例えば、最初の1年は、④重点内容項目のみを、全教職員の共通理解の下で実践していく。そして3年計画で徐々に増やし、⑤に近づけていくという方法が考えられる。

6 道徳科の年間指導計画について

道徳科（週 1 時間の道徳授業）の年間指導計画に、学校の重点目標を反映させていくことが大切である。

例えば、重点目標に関わる内容項目（重点内容項目）は、年間 1 時間ではなく、2～3 時間ほど、授業を行うことが考えられる。

道徳教育の内容項目数は、次のようになっている。

- ・小学校低学年・・・19 の内容項目（指導内容）
- ・小学校中学年・・・20 の内容項目（指導内容）
- ・小学校高学年・・・22 の内容項目（指導内容）
- ・中学校・・・22 の内容項目（指導内容）

例えば、1 時間に 1 つの内容項目を学習したとすると

- ・ $35 - 19 = 16$
- ・ $35 - 20 = 15$
- ・ $35 - 22 = 13$

低学年は 16、中学年は 15、高学年と中学校は 13 の余剰時間ができる。この余剰時間に、重点内容項目に関わる授業を行うようにする。

○配列について

- ・他の教育活動との関連や季節的変化等を考慮することが望まれる。
- ・例えば、体育大会等は、児童生徒の目標に向かう態度や規則尊重の態度を指導する機会が多いと思われる。その場合、体育大会の直後に、育ちつつある心情や態度を、道徳科の授業で、更に深化させていくことが考えられる。
- ・例えば、いじめ防止を目的として、いじめ問題に関する教材を使って授業を行う場合は学年の早い時期に行うことが望まれる。問題行動が起きる前に位置づける。

○複数時間扱いについて

- ・重点目標に関わる内容項目については、2～3 時間で扱い、じっくり考え、議論させる等の工夫が考えられる。
- ・教材によっては、複数の道徳的価値が含まれているものがある。そのような場合、同じ教材で、別々のねらいを設定してそれぞれ授業を行うことが考えられる。

○地域教材や「私たちの道徳」等の活用について

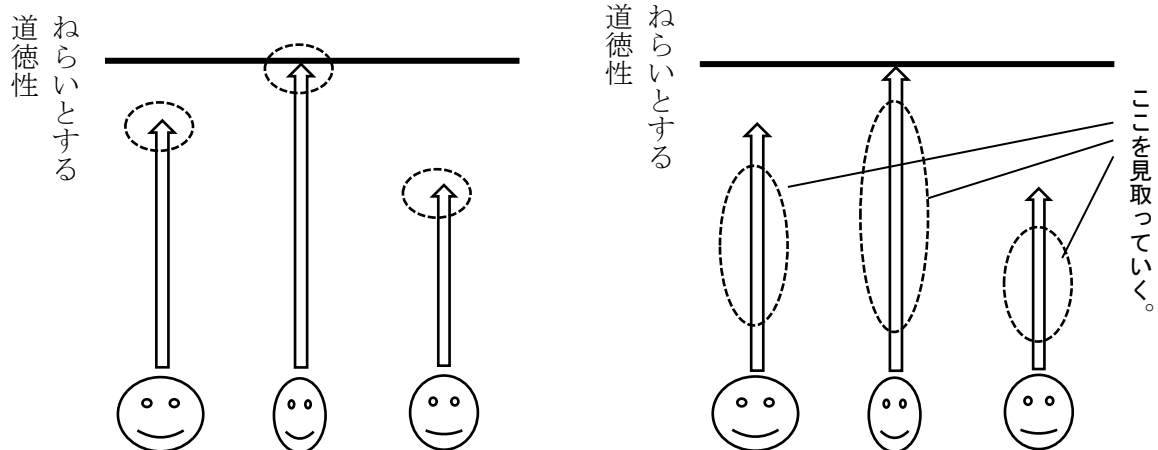
- ・例えば、使用している教科用図書に重点内容項目に関わる教材が不足している場合、教育委員会作成の教材や「私たちの道徳」に掲載されている教材を活用することが考えられる。
- ・道徳科は主たる教材として、教科用図書を使用しなければならないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材等の活用は重要である。

7 道徳科の評価について ①

- 数値による評価ではなく、記述式であること。
- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- 他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまない。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- 発達障がい等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。
 - ・相手の気持ちを理解することが苦手で、字義通りの解釈をする場合には、他者の心情を理解するために、動作化、役割演技、劇化等の指導を取り入れる。
 - ・話を最後まで聞いて答えることや順番を守ったりすることが困難であったり、衝動的に行動し、他者の行動を妨げてしまったりする場合、注意が持続できるよう、適度な時間で活動を切り替える等の配慮をする。

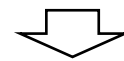
児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

○道徳科の評価は個人内評価



- ・上のイメージ図は、目標に準拠した評価。
- ・絶対評価とも呼ばれる。
- ・道徳性が育ったかどうかを見取るのは難しい。

- ・上のイメージ図が、個人内評価。
- ・授業の中で、児童生徒の学習状況を把握していく。
- ・道徳科の評価の在り方。



週1時間の道徳の授業における望ましい学習状況の積み重ねが、道徳性の育成につながっていく。

○大きくくりなまとまりを踏まえた評価

- ・道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかということの評価するのではなく、学期や学年など一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価していく。
- ・一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられる。
- ・一つの授業の学習状況のみを取り上げて、評価をしないこと。

道徳科の評価について ②

1. 道徳科の授業における評価の考え方

道徳科における児童生徒の学習状況は、教師の指導によって変わるということを、我々は肝に銘じておかなければならない。

児童生徒の学習状況の把握と評価は、学習指導過程における指導と評価を一体的に捉えることが重要である。指導と評価を一体的に捉えるとは、指導者が意図した学習状況が生まれてくるように授業を構想し、指導者が意図した学習状況が見られたかどうかを評価していくことである。

留意すべきことは、偶然に現れる児童生徒の学習状況を把握するのは難しいということである。教師が意図した学習状況に対して、児童生徒がどのような学習状況を見せたのかを評価することが大切である。

2. 道徳科の授業における評価の観点

児童生徒の学習状況を評価するためには具体的な観点が必要である。明確な意図をもって指導や指導方法の計画を立て、学習指導過程で期待する児童生徒の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

ここで言う観点とは、各教科の観点別評価の「観点」のことではない。

道徳科の学習状況は、道徳科の目標に示されている学習の要素に概ね帰結すると思われるので、例えば、次のような①～④の学習状況（具体的な学びの姿）が考えられる。

- ①道徳的価値の理解（大切さ、難しさ、多様さ等）を自分との関わりで深められている。
- ②中心発問に対して、自分の生活や自分の生き方の問題として（自分事として）考えることができている。
- ③道徳的問題場面や中心発問に関わる話し合いの中で、多面的・多角的に考えたり、発言したりしている。
- ④学習したことを基に、今の自分を振り返り、自分自身の課題や願いについて考えたり、書いたりしている。

3. 道徳科の学習指導案における評価の観点

例えば、上記①～④の方向で、実際の教材や中心発問等を鑑みて、児童生徒の具体的な学びの姿を想定したものが、学習指導案に示すべき評価の観点となり得る。

あくまでも、学習状況を評価するのであって、「心情が育っている」等の道徳性そのものを評価するような観点は設定しない。

なお、評価の観点は1つか多くて2つが妥当と考える。

【学習の中心】・・・ 学習活動の中心となる内容（中心発問等）

【学習活動】・・・ 指導者が期待する児童生徒の学習状況を表したもの

【道徳性】・・・ 授業で育てたい心情や判断力等の内面的資質を表したもの
（※あくまでも方向目標であり、評価の対象ではない。）

→ 評価の観点・・・ 実際の教材や中心発問等を鑑みて、期待する児童生徒の具体的な学びの姿を想定したもの

4. 道徳科の学習指導案における評価の観点 ～例～

(1) 例1：【教材「黄色いベンチ」・・・「私たちの道徳」低学年用に掲載】

【規則の尊重】〔第1学年及び第2学年〕
約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

①ねらい（例）

- 【学習の中心】・・・ 靴のままでベンチに上がった2人の行為について
【学習活動】・・・ 様々な立場から考えさせる学習活動を通して
【道徳性（方向目標）】・・・ みんなで使うものを大切にしていこうとする心情を育てる。

②評価について（例）

【学習状況を把握するための評価の観点】

ベンチを汚した立場とベンチを汚された立場の両面の思いを考えながら発言している。

【評価の方法（いつ、どのようにして）】

- ・汚した立場：役割演技の様子や発言から見取っていく。（机間指導と意図的指名）
- ・汚された立場：ワークシートの記述や発言から見取っていく。

(2) 例2：【教材「雨のバス停留所で」・・・「私たちの道徳」中学年用に掲載】

【規則の尊重】〔第3学年及び第4学年〕
約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

①ねらい（例）

- 【学習の中心】・・・ よし子の行為について
【学習活動】・・・ 自分事として考えたり、良し悪しを判断したりする学習活動を通して
【道徳性（方向目標）】・・・ きまりやマナーを守ろうとする判断力を育てる。

②評価について（例）

【学習状況を把握するための評価の観点】

よし子の行為について、自分ならどうするか考えたり、きまりやマナーの視点から発言したりしている。

【評価の方法（いつ、どのようにして）】

- ・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。（机間指導と意図的指名）
- ・ワークシートの記述から見取っていく。

(3) 例3：【教材「二通の手紙」・・・「私たちの道德」中学校用に掲載】

【遵法精神，公德心】 法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切に，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。

①ねらい（例）

- 【学習の中心】・・・元さんが姉弟を入園させたことについて
- 【学習活動】・・・きまりの大切さを生命尊重や思いやり等の視点から考えることを通して，
- 【道德性（方向目標）】・・・きまりを守り義務を果たすことのできる判断力を育てる。

②評価について（例）

【学習状況を把握するための評価の観点】

きまりの大切さを生命尊重や思いやりと関連付けながら考え，発言したり書いたりしている。

【評価の方法（いつ，どのようにして）】

- ・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。（机間指導と意図的指名）
- ・道德ノートの記述から見取っていく。

(4) 例4：【教材「きみばあちゃんの椿」・・・「私たちの道德」中学校用に掲載】

【生命の尊さ】

生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。

①ねらい（例）

- 【学習の中心】・・・淡窓の話を聞いた裕介の思いについて
- 【学習活動】・・・自分事として語り合ったり，精一杯生きる意味を考えたりする活動を通して
- 【道德性（方向目標）】・・・自他の生命を尊重する心情を育てる。

②評価について（例）

【学習状況を把握するための評価の観点】

裕介の思いを自分と重ねながら語り合ったり，精一杯生きる意味を自分事として書いたりしている。

【評価の方法（いつ，どのようにして）】

- ・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。（机間指導と意図的指名）
- ・道德ノートの記述から見取っていく。

参考にした書籍や資料等

- 『道徳授業で大切なこと』 赤堀博行 著 東洋館出版社
- 『道徳教育で大切なこと』 赤堀博行 著 東洋館出版社
- 『道徳科の内容に含まれる道徳的価値の考察』（雑誌「道徳と特別活動」に掲載）
赤堀博行 著 文溪堂
- 『私たちの道徳』低学年用，中学年用，高学年用，中学校用 文部科学省
- 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省
- 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省
- 『大分県小中学校教育課程研究協議会 説明資料』 大分県教育委員会
- 『先人の生き方から学ぶ道徳の授業展開』平成 27 年度版 大分県教育委員会

イラスト協力 イラスト集 人・人物のイラストわんぱグ